

厚生文教委員会報告書

平成27年8月17日

備前市議会議長 田 口 健 作 殿

委員長 鵜 川 晃 匠

平成27年8月17日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	審査結果	備 考
1 まち・ひと・しごと創生総合戦略について	報 告	—
2 学校教育についての調査研究 ① 学力向上の取り組みについて	継続調査	—

<報告事項>

- ヘルスパ日生について（保健課）
- 吉永地域認定こども園（仮称）の進捗状況について（こども育成課）
- 国際交流事業について（市民協働課）
- 地域おこし協力隊について（市民協働課）

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
報告事項	2
まち・ひと・しごと創生総合戦略について	4
学校教育についての調査研究	6
閉会	13

厚生文教委員会記録

招集日時	平成27年8月17日（月）		第4回臨時会閉会后	
開議・閉議	午後4時22分	開会　～	午後5時08分	閉会
場所・形態	委員会室A・B	閉会中の開催		
出席委員	委員長	鵜川晃匠	副委員長	星野和也
	委員	橋本逸夫		津島　誠
		守井秀龍		立川　茂
		石原和人		森本洋子
欠席委員		なし		
遅参委員		なし		
早退委員		なし		
列席者等	議長	田口健作		
	委員外議員	なし		
	紹介議員	なし		
	参考人	なし		
説明員	市民生活部長	藤原弘章	市民協働課長	眞野なぎさ
	文化スポーツ課長	田原義大		
	保健福祉部長 兼 福祉事務所長	大西武志	保健課長	山本光男
	介護福祉課長 兼 医療福祉連携課長	高見元子	社会福祉課長	柴垣桂介
	子育て支援課長 兼 こども支援課長	今脇誠司		
	病院総括事務長	森脇　博	日生病院事務長	植田明彦
	吉永病院事務長	万波文雄		
	教育部長	谷本隆二	教育総務課長	芳田　猛
	学校教育課長	磯本宏幸	生涯学習課長	大道健一
傍聴者	議員	なし		
	報道関係	なし		
	一般傍聴	なし		
審査記録	次のとおり			

午後4時22分 開会

○**鵜川委員長** 本会議でお疲れのところ御苦労さまです。

ただいまの出席は8名でございます。定足数に達しておりますので、これより厚生文教委員会を開会いたします。

本日は、まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）の当委員会所管部門についてと学校教育についての調査研究となっております。

調査研究に入ります前に、執行部からの御報告がございましたら順次お受けいたします。

***** 報告事項 *****

○**山本保健課長** それでは、保健課よりヘルスパ日生について報告をさせていただきます。

まず、市が所有しております温浴施設につきましては9月末で閉鎖をいたしますが、議会の附帯決議の中で有効活用に向けた最善の策を講じることを求めると書かれております。市として今後どのような活用をするかを検討してまいります。施設をきれいな状態で維持していくためにはそれなりの管理をしていく必要があるため、次期定例会には維持管理に要する費用を補正予算計上させていただく予定にいたしております。

また、平成24年度、25年度にさかのぼりますが、平成24年11月下旬ごろ、男子風呂においてさびが原因と思われる濁りが発生いたしました。通常の営業に支障を来す状況になりました。ろ過装置を動かさずに利用しており、毎日の湯の入れかえ、それから清掃点検、塩素濃度の定期的な測定が必要ということになりました。

平成25年度にろ過装置を更新するまでの水道光熱費の増加分、これは平成24年12月から平成25年6月分までのものになりますが、この増加分の請求を平成25年7月に体力づくり指導協会からいただきました。当時市としては支払いが難しいと口頭で伝えており、協会にその旨を理解していただけたものと思っておりましたところ、平成27年2月下旬に再請求を受け、これまで協会と協議を重ねてまいりましたが、協会からの請求どおり、お支払いをすることといたしました。これにつきましても、補正予算対応とさせていただく予定にしております。本来、平成25年度にしっかりと協議を行い、指定管理料を増額変更すべきでございましたが、結論がこの時期になったことにつきまして大変申しわけなく思っております。

次に、温水プールにつきましては、今月の6日に体力づくり指導協会から寄附申出書の提出がありました。内容は、温水プール施設、鉄骨鉄筋コンクリート1階建て、面積は950.71平方メートル、附帯設備を含むという内容のものでございます。今月の庁議では、寄附について前向きな方向で協議がなされ、用途とあわせて正式に寄附を受けるかどうかを今後協議し、決定していく予定にいたしております。新たな方向性が出ましたら、議会へ報告をさせていただきたいと思っております。

簡単でございますが、ヘルスパ日生に関する報告を終わります。

○**今脇子育て支援課長兼こども育成課長** こども育成課から仮称吉永地域認定こども園の進捗状況について報告を申し上げます。

また、諸事情によりまして、今後建築費に係る継続費の補正についてをお願いしていきたいと考えております。

まず、経過、進捗状況でございますが、4月から新しい各役員さんによりまして協議を重ねてまいりまして、7月末までの約4カ月、保護者代表者会議であったり、園長会等で基本設計協議を行ってまいりました。この間に、園児の視点からの建物デザインに関する意見の聞き取りというようなことも行ってまいっております。これらの方々の先進地視察などを5月末と8月上旬に行い、現在詳細設計に移ってきておりますけれども、多くの御意見をいただきながら、慎重に協議する中で若干のおくれも生じております。今後、実施設計を11月末までに、そしてその設計額を受けて12月議会で継続費の補正計上のお願いをしたいと考えております。

次に、その12月議会での継続費の枠の増額補正についてでございます。その理由ですが、まず本市では今年度から4、5歳児の保育料無料化を行っておりますが、さらに対象年齢児の引き下げを踏まえまして、あるいは国の今後の無料化拡大の動向も見据えていく必要があることから、これに対応した面積増を考えております。

また、当初予算要求時の建築費には、吉永地域の地域子育て支援拠点施設を別途に考えるものとして含めておりませんでした。施設の連携などを含め、こども園内に併設する案が上がり、その場合部屋面積として約90㎡の面積増を考えております。そのようなことから、現在のところ当初予算時の約1,700㎡から約1,700㎡増の約1,870㎡を考えております。

また、この面積増に伴う増額に加えまして、近年特に、今年度でございますけれども、建築に係る資材費及び人件費が高騰していることなど、それから設計の段階で県道側とJR側のくぼ地に場所があることから、避難所の機能も持たせるといふようなことも含めまして増額を考えております。そういうことで、継続費枠の増額のお願いをしたいというふうに考えております。

継続費の補正の計上時期につきましては、先ほども申しましたけれども、詳細な実施設計の後に、時期的には今年度12月議会時になろうかと思っておりますけれども、計上時期を考えておりますので、その際にはどうぞよろしくお願いを申し上げます。

○眞野市民協働課長 市民協働課より2点御報告を申し上げます。

まず1点目、国際交流事業についてでございます。

オーストラリアのクレア&ギルバートバレー町に8月1日から10日、9泊10日の日程で中高生16名、引率4名、それからアメリカのメンロパーク市に8月4日から10日、6泊7日、中学生8名、引率4名の訪問団を派遣いたしました。ホームステイや施設見学、学校訪問などを行い、現地の方と交流を行ってまいりました。滞在中には事故もなく、8月10日にどちらの国からも無事に帰国しております。8月下旬には事後報告会を予定しております。

2点目、地域おこし協力隊についてでございます。

伊部地区に2名、三国地区に2名の計4名が8月1日付で就任しております。年齢は、三国地区の2名は20代、伊部地区の2名が40代でございます。市内で活動している地域おこし協力隊員は合計で7名となりました。また、9月にも1名が就任予定でございます。今後も随時募集

を行ってまいります。

○**鶴川委員長** ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、これまでの報告事項に対する質疑等がございましたらお受けをいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、報告事項を終わります。

***** まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）について *****

それでは、本日の招集案件のうち、まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）についてですが、前回の人口ビジョン同様、中島人口減対策監に御出席をいただいております。

さきの報告によりますと、策定までのスケジュールでは、時間に余裕がありませんが、議会の意見聴取という形で委員会の議題としております。

それではまず、人口減対策監からの報告をお受けいたします。

○**中島人口減対策監** 私から地方創生について御報告をさせていただきます。

去る7月28日に第3回備前市まち・ひと・しごと創生懇談会を開催いたしました。懇談会では、第2回の懇談会でいただきました御意見をもとに備前市まち・ひと・しごと創生長期ビジョン並びに備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略の案を作成し、御協議いただきましたところでございます。

お手元の資料にあります備前市まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン（案）並びに備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）をお示しした中で、4グループに分け、担当職員も参加しまして議論を行っております。懇談会では数多くの御意見をいただき、その意見につきましてはお手元に資料としてお配りしております。

それでは、第3回の懇談会で配付しました備前市まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョンから説明をさせていただきます。

本市の人口ビジョンにつきましては、前回御説明したとおりでございますが、皆さんからの御意見を踏まえて追加や変更を行っております。細かいところは省かせていただきます。

まず、7ページをお開きください。

5歳階級別の人口で、60歳以上を追加、このため階級別指数のグラフも変更をしております。

8ページ、視覚的な観点から人口ピラミッドを挿入しております。

9ページ、出産時の母親の年齢で表及びグラフがわかりづらいということで、文字の表記としています。

13ページをお開きください。

年齢別転入、転出者数のグラフで、2014年を追加しております。

16ページをお開きください。

総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の推移を追加しております。

19ページをお開きください。

本市の産業分類における従業員数の表を挿入しております。

20ページをお開きください。

20ページ、21ページは新たに保育園、幼稚園、小・中学校の状況を入れております。

29ページをお開きください。

視覚的観点から2010年の人口ピラミッドを一番上に、また①による2060年の人口ピラミッドを真ん中に、④による人口ピラミッドを一番下に挿入しております。

次に、備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)をごらんいただきたいと思ひます。

この総合戦略(案)につきましても、皆さんからの御意見をもとに追加や訂正を行っております。また、各施策において関係する担当課を記載しております。

それでは、11ページをお開きください。前回より追加している項目を申し上げたいと思ひます。

11ページ、①の4、近隣市町での地域医療の連携、①の5、不妊治療医療費の上乗せ支援、12ページ、①の8、一時保育の充実、①の9、子育て支援のPRの充実、①の10、出産費用の支援、①の11、赤ちゃん登校日の実施、13ページ、②の2、市内回帰を条件とした奨学金制度の創設、14ページ、②の3、企業誘致奨励金、本社機能の移転の創設、②の4、企業用地の造成、②の5、県や近隣市町との連携による産業支援、②の6、IT企業やサテライトオフィスの誘致、15ページ、②の7、創業奨励金の創設、②の10、地場産業の育成支援、②の11、就職フォーラム等の実施。

16ページをお開きください。

②の12、備前地域の企業ガイドブックによるPR、17ページ、③の3、空き家の利活用、③の5、まちづくりサポーター、19ページ、③の10、新規就農者への支援、20ページ、③の13、備前焼の玄関口の整備。

22ページをお開きください。

④の6、まなび塾の充実、24ページ、⑤の8、気軽に集える場所、店の整備、⑤の9、人と人との結びつき、25ページ、⑤の10、近隣市町との連携、これらにつきましては前回御提案をいただきました御意見をもとに取り組み事項として盛り込んでおります。

第3回の懇談会の意見につきましては、お手元に資料として配付しておりますが、多くの御意見をいただいております。今回の資料には反映できておりません。これら意見を踏まえて、現在修正中ですので、その点を御了承願ひます。

以上でこの総合戦略の案につきましても説明は終わりますが、引き続き担当課と協議しながら作成していく予定としております。

なお、9月3日に第4回備前市まち・ひと・しごと創生懇談会を開催する予定としておりまして、この会で最終の意見聴取を考えております。

以上で資料の説明を終わります。

○**鶴川委員長** 報告が終わりました。

ただいまの報告の質疑を含め、戦略案のうち当委員会所属部分についての御意見がございましたら発言を願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）についての審査を終了いたします。

教育委員会関係以外の説明員の方は御退席を願います。

***** 学校教育についての調査研究 *****

それでは、学校教育についての調査研究のうち、学力向上の取り組みに入りますが、その前に資料の説明を願います。

○**磯本学校教育課長** それでは、失礼いたします。お手元の平成27年度岡山県学力・学習状況調査の概要についてという資料をごらんください。

既に7月11日の山陽新聞などで平均正答率について市町村ごとの結果も報道されています。本調査は、県内の中学校1年生を対象に岡山県教育委員会の施策として4月21日に実施されました。備前市では268名が受験しております。この調査は、国語、数学、社会、理科の学力検査と家庭での生活状況などを調べる質問紙調査の2種類があります。

それでは、1、学力調査をごらんください。

(1)の平均正答率については、一番上の27年度が本年度の調査結果です。4教科の平均正答率は、備前市が61.0%、岡山県が60.9%であり、0.1ポイント上回っております。しかし、教科別で見ると、国語と理科に課題がありました。昨年度と比べますと、いい結果であるとは言えますけれど、子どもは年度ごとの県との比較よりも同じ学習集団をどれだけ伸ばすことができたのかということに着目すべきだと考えております。

下に参考として挙げております同一集団の平均正答率の経年変化をごらんください。

今回受験した生徒は、昨年度小学校6年生で全国学力調査を受けた児童とほぼ同じになっております。国語と算数の2教科で県との差を比べると、昨年度0.2ポイント下回っていたものが本年度は0.3ポイント上回っています。単純に考えれば、6年生の1年間で0.5ポイント分伸びたと見ることができます。

次に、お開きいただくと、2ページ目の正答度数分布という表を載せております。

表の見方について説明しますと、例えば国語は19問あり、19問全て正解、つまり100点は19のところはその割合が出ます。棒グラフは県の分布、折れ線グラフが市の分布というふうにしております。教科ごとに違いはありますが、度数分布上からは下位層の中位から下位層の出現率がやや高く、上位層の出現率が低い傾向が見られ、これが平均正答率に影響している部分と捉えています。しかし、おおむね備前市は県の分布と似通っており、備前市でも上位の生徒は当然おり、下位層もそれほど多くはないと考えています。

続いて、2の学習状況調査をごらんください。

主なものとして、家庭学習の様子について、テレビ、テレビゲーム等の娯楽についてを載せております。見ていただくと、例えば家庭学習については昨年度よりも時間数がふえている、娯楽については昨年度よりもやや少なくなっているという様子が見えるかと思えます。

3に、学校及び市教育委員会の取り組みを紹介しています。

この取り組みに加えて、学校においてはこの調査で明らかになった生徒の未定着の部分を復習や繰り返し学習により定着を図っていこうということと呼びかけております。また、教育委員会では、補充学習や家庭教育の充実を図られるよう現在県事業を活用したり市で予算化して対応しておりますが、今度学校の意見も取り入れながらさらなる充実を図ってまいりたいと考えております。

以上、概略を説明いたしました。

また、最後のページですけれど、岡山県教育委員会が発表した市町村別の平均正答率の資料を添付しております。既に教育委員会のホームページで、学校教育課からのお知らせに、本日お示しした資料にも詳しいものを公表しておりますので、よろしければごらんいただけたらと思えます。

○鶴川委員長 説明が終わりました。

御意見等がございましたらお受けをいたします。

○橋本委員 説明によりますと、平成26年度の全国学力テストのときに2教科だけで比較すれば備前市の子供たちは岡山県の平均よりもわずか0.2ポイント低かった、それが27年度の県の学力テストで2教科だけを比較すると、これもわずかですけれども0.3ポイント上がっていると、つまり1年間で幾らか改善されたという結果なんですけど、この原因についてどういったことが伺えるのか、例えばタブレットであるとかまなび塾であるとかが功を奏しておるんかなと、どういうふうの原因を分析しておるのかという点と。

もう一点は、娯楽のほうで遊ぶ時間が幾らか少なくなったと、これも岡山県が今積極的に推奨しておりますメディアコントロール、9時以降のスマホは禁止だとか、そういうふうないろいろなことをやっておりますが、備前市は余り大きく取り組んでないような気もするんですが、こちら辺についての現在の取り組み状況をお知らせください。

○磯本学校教育課長 まず、1点目の幾らか改善された理由ですけれど、誤差のうちと考えられるかもわかりませんが、この1年間で放課後学習であるとか、土曜日や長期休業中の学習ということを利用して、特に下位層の子供たちにつまずきをなくす指導をしてきたということが一番大きな原因かなと私は考えております。実際、全ての学校でそういう取り組みをしておりますので、その影響が大きいかなと思っております。

2点目のメディアコントロールについてですけれど、前回の委員会の中でも少しお話ししましたが、全ての中学校区で養護教諭が中心となってスマートメディアであるとか、そういった取り組みをしております。具体的には、メディアコントロールの習慣を設けて、特に中学校の中間テ

ストや期末テストにあわせて、この期間がんばりカードを使って家で一緒にメディアコントロールしていきましょうと。テレビやビデオであるとか、スマートフォンを使うことを少なくしていきましょうというふうな取り組みをしております。

それとあわせて、全ての中学校区ではありませんけれど、複数の中学校区で家庭学習習慣ということで、ちょうど小学校も中学校も家庭学習を充実させる習慣にしようという取り組みをしております。

○**鶴川委員長** ほかにございませんか。

○**立川委員** この中の資料で、1点お尋ねしたいのが、3番の学校及び市教育委員会の取り組みという中で、体制整備できめ細やかな指導を可能にする市費非常勤講師や教育支援員の配置というのを出しておられるんですが、具体的に例えば人数とか体制とか、もしわかりましたら教えていただけたらと思います。

○**磯本学校教育課長** 本年度につきましては、小学校の非常勤講師、市費では7名配置しております。中学校のほうは8名配置しております。それから、特別支援教育との関係もありますが、落ちついた学習環境をつくるという意味で、小学校で9名、中学校で4名、中学校のほうが生徒指導の関係も入っております。それだけ配置しております。

○**鶴川委員長** ほかに資料の説明で御意見ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、学力向上の取り組みについての御意見等をお受けいたします。

委員の皆さんございませんか。

○**石原委員** 済いません、小・中学生のタブレットの導入もされてしばらくになりますけれども、間もなく2学期が始まるうとしておりますが、順調にというか有効に活用は進んでいるのでしょうか。

○**芳田教育総務課長** 以前にもお話しさせていただきましたICT活用推進協議会のほうで、各学校で研修会等をして、私も授業を見ましたが、どんどん活用は進んでいると認識いたしております。

○**石原委員** 去る6月末でしたか、村を挙げて熱心に取り組んでおられる秋田県の東成瀬村へ御縁あって視察にお伺いしたんですけれども、そちらの村では村内に小学校も1つ、中学校も1つというような状況、それからかなり集中して、そういう施設も隣接して、もう保育園のころから小学校の子供さん同士がなれ親しんで、かなり小学校の環境に順応されて、子供さんが入学されてくるような何か環境が整つような感じ。

それから、その村では今のところですけども、ICTはほぼ導入予定がないというか、関心は今のところはありませんというような話をお聞きしたり、村の小学校もお邪魔したんですけども、特に感じましたのが、取り組みとして授業改善も積極的に行っておられるんですけども、本当になかなか伝えるのが難しいんですけども、子供さんもう低学年のころから我先に、積極的に発言をされる、そういうのが定着しておる。それから、その発言を聞く周りの子供

さんも、しっかりと発表されるその子供さんのほうを向いて静かに聞くような状況がきちんとできておって、びっくりしたんですけれども、次々と積極的な発言が出てくる、しっかりと自分の考えを言葉にして述べるができる、学力以前にそういう環境に本当に驚いて帰ったんですけれども、しっかりと備前市のほうも、教育のプロの皆さんですから、しっかりと積極的にそういう面も取り組んでいただけたらなというふうに思います。

○磯本学校教育課長 先ほど石原委員がおっしゃられたことが、実を言うと教育の、学校現場での理想だと思えます。それを目指して今取り組んでいるところであります。学校教育課の事業ではありませんけれど、こども育成課のほうからも呼びかけがありまして、今実際に小学校の教員が幼稚園、保育園でどんなことをしているのか知らない。保育園や幼稚園のほうも小学校はどんなことをするのか知らない。そのギャップを埋めようということで、教員に実際に現場に行っていて、それでどんな様子なのかを見ていただくという取り組みがだんだん始まっているところであります。そういったことも通して、垣根のない速やかな、円滑な接続を図っていきながら子供たちの落ちついた学習環境をつくっていかれたらと考えております。

○石原委員 それから、取り組み内容にもありますが、家庭での学習ということで、こちらもかなり重要なのかなと思いますけれども、さっきの東成瀬村でも、さすがに小学校低学年、1年生、2年生のときは積極的に先生方も宿題でやはり家庭での学習時間を確保できるよう努められるそうですけれども、中学年以上になると各自で、友達同士であったり、それから上級生との縦のつながりも持って積極的に問題を出し合ったり、何か自然な形で家庭学習にもしっかり取り組んでられるような状況がありましたので、ぜひともすばらしい取り組みというか、一つのいい例だと思いますので、教育委員会のほうでもしっかり研究されて、備前市でも取り組めるところがあればしっかり取り組んでいただきたいと思えます。よろしくをお願いします。

○鶴川委員長 ほかにございませんか。

○星野副委員長 まなび塾の件についてちょっと質問させていただきます。

3年目を迎えるわけですが、ちょっと教育委員会として、オール教育委員会で臨んで基礎学力の定着、補充学習、家庭学習の充実というか基礎をつくるという目的だったと思うんですが、だんだん教育委員会の意気込みっていうのがちょっと薄れてきているんじゃないかなというのをどうしても感じてしまうんですが、そんな中で今後の取り組みとしてどうしてもまなび塾の中で3限目、3時間目って子供たちがだらけてきて、もう宿題も終わってしまうんですが、そういうところに今基礎学力向上をさせるための、教育委員会として今後こういうことを取り組みたいなっていうのは、考えられているものは何かあるんでしょうか。

○磯本学校教育課長 決して薄れてきているわけではなくて、本来的には地域が主体的になって動いていただくという姿に近づいてきたんじゃないかなと思います。実際に本年度の開校式においても、多くの公民館のほうでこちらが伺わなくても開けるような状況になってきたという、大変ありがたいなと思っています。

それで、3限目のことについてですけど、まだ具体にはなっていないし、何とも言えないので

すけど、例えば子供たちに少しでも興味を持てるようにということで、ALT等を活用して英語教室を1こま設けたり、あるいは例えば数学に特化していく時間を設けたりとかというふうなことは案としてはあります。まだ具体にはなっておりません。そういうところでございます。

○**鶴川委員長** よろしいか。

○**星野副委員長** はい。

○**鶴川委員長** じゃあちょっと交代します。

[委員長交代]

○**星野副委員長** 委員長が委員としての発言を希望されていますので、委員長を交代いたします。

○**鶴川委員長** 先ほど石原委員からのお話があったと思うんですけども、秋田県の東成瀬村へ私も同行させていただいて、勉強してきたんですけど、そこでその教育長さんがこのように言うておられました。私はこの話を聞いて、ぜひ備前市も取り入れてほしいなというようなことで、ここで御発言をさせていただくんですけども、その教育長は学校の先生に、あるいは特に赴任してきた新任の先生とか、東成瀬村へ来た先生に、一人一人にうちの村の教育方針を、その一人一人と面談をして、教育長がこの方針をやっていく、教育についての方針を説明しながら先生方の理解を得て、それを子供たちの学習に生かすんだという取り組みをずっとやってこられているということです。

ですから、私は先生方のコンセンサスを得るためにも、あるいは備前市の教育方針を伝える上でも、私はそういう取り組みをまねするわけではないんですけども、いいところはぜひ私は取り入れていただきたいなと思います。特に、今の備前市の教育長は新規に教育長になったわけですから、ちょうどタイミングとしては、私は今の教育長が何を考えとんじやろうか、あるいは備前市がどういう取り組みをしていくんだらうかということについてはいい時期じゃないんかというふうに思いますので、ぜひ教育長さんにそのことをお伝えいただいて、その結果どうされるんか、また機会があったらこの場で教育長さんのお考えをお聞かせいただけたらと思うんですが、その点いかがでしょうか。

○**谷本教育部長** 大変いいお話だと思います。ちょっと規模的な問題がございますので、一人一人というのが難しい面があるかもしれませんが、教育長のほうにはこういうお話をいただきましたということでお伝えさせていただきます。

○**鶴川委員長** いや、それは当然規模があるんですけど、でもこれはいいことは時間を少々かけてもそれにやはり取り組んでいく姿勢、当然先生方のコンセンサスを得るためにも、今言うタブレットを一つとるんでもタブレットが本当にいいんか悪いかわからんというような批判する先生も恐らく中にはおると思うんですよ。でも、教育長さんがそれをもって学力の向上に当たるんだという熱意があるんなら、学力向上へのそういう意思を伝えるという意味でも、そういう学校方針を全て、時間をかけてでも、何年かかっても、1年でできなったら2年かかっても私はやるべきだということを思っていますので、その点、私の意見ですけども、よろしくお願ひしたいと思

います。

○谷本教育部長 決して難しいからやめるとかそういうのではなくて、その旨でお伝えしたいと思います。

○鶴川委員長 終わります。

○星野副委員長 委員長を交代いたします。

[委員長交代]

○鶴川委員長 ほかに。

○森本委員 先ほどのタブレットの件なんですけど、私は新見市へ視察に行かせていただいて、新見はもちろん国の事業でやっておられるので進んではいるんですけど、やはり支援員は必要だっということをおっしゃられていました。予算要求ではじかれたって言われていたんですけど、今後とも諦めずにしっかりと支援員の確保を目指していただきたいなと思うんです。

○芳田教育総務課長 先ほどのICT活用推進協議会のほうでもそういった御意見が出ていますので、予算確保に向けて努力してまいりたいと思っております。

○鶴川委員長 いいですか。

○森本委員 はい。ありがとうございます。

○鶴川委員長 ほかにございませんか。

○星野副委員長 同じタブレットなんですけど、6月定例会でソフトの導入が決定しましたが、そのソフトはいつごろ導入されるのでしょうか。

○芳田教育総務課長 一度入札しましたが、落札がなくて、再度この8月21日でしたか。そこで入札が終わりましたら8月21日以降、順次設置してまいります。ソフトですので、そんなに時間はかからないと思いますので、2学期中にはいけると思います。

○星野副委員長 そのソフトを決定した後ですが、インストールの方法、タブレットに一台一台入れていくのか、一括でインストールできるのか、そのあたりをどう考えておられますか。

○谷本教育部長 確定的には申し上げられないんですが、サーバーの中にアプリケーションを入れるようなパターンになっているかと思っておりますので、サーバーを各校のほうへセットアップしたら使える環境になると思っております。

○星野副委員長 わかりました。

○橋本委員 入札が不調に終わったということなんですけど、予定価格が余りにも低かったということですか。その入札が不調に終わった理由は。

○芳田教育総務課長 予定価格が厳しいところで設定されたかなと考えております。

○橋本委員 教育のまち備前市なんですけど、ふるさと納税もたくさん集まりよんじゃから、もうちょっとどんとやりましょうというのが私の意見です。

○芳田教育総務課長 それは、頑張ってください。

○鶴川委員長 ほかにございませんか。

○石原委員 学力からちょっと離れるんですけど、今ふと思ったんですけど、各小学校、中学校

ですか、備前市独自か全国的なものかわかりませんが、年に1回か、頻度はわかりませんが、学校の様子を子供さん、生徒さんにお尋ねするようなアンケート調査みたいなものがあるんですか。

○磯本学校教育課長 恐らく、学校評価のためのアンケートだと思います。子供たちが学校での生活を楽しんでいるかとか、あるいは先生はきちっと話を聞いてくれるかとか、それぞれ学校ごとに項目を設定して、それをもとに学校の取り組みを評価するためのアンケートだと思います。

○石原委員 それは毎年行われているんですね。

○磯本学校教育課長 学校教育法で学校評価をするように決まっております。アンケートは参考の資料ではありますが、子供や保護者や地域がどう見ているのかということを経年すること、どの学校も取り組んではいます。

○石原委員 それは、アンケート結果のようなものを可能な範囲で、資料として提供していただくようなことはいかがでしょうか。

○磯本学校教育課長 そもそもが学校のアンケートですから、学校からということは可能ですけれど、教育委員会が取りまとめてそれぞれの学校のというのはちょっと筋が違ってくるのかなと思います。

ただ、これについては、公表するということが前提ですので、例えば学校通信であるとか、ホームページがあるときはホームページであるとか、そういったことを使って公表ということはやっております。

ただ、どうしてもと言われるのであれば校長のほうに話をし、可能なところについては提供することはできると思います。

○石原委員 それならまた、学校へ言ってみます。ありがとうございます。

○鵜川委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ちょっと委員長を交代したいと思います。

〔委員長交代〕

○星野副委員長 委員長を交代いたします。

○鵜川委員長 学力向上の取り組みということで、大きい意味でちょっと見ていただきたいんですけど、武道の必修化等が中学校で実施されているんですけど、学力の向上にも大いにプラスになると私は信じておるんですが、その時期を私個人的にでも、また個人的に言うたってええのか、視察等にも活用していきたいと思うんで、どこの学校がいついつ取り組んでいるかというのをぜひ一覧表にして教えていただきたいというのが私のきょうお願いなんですけど、できるでしょうか。

○磯本学校教育課長 体育の時間の武道の取り組みでよろしいですか。

もちろん必修として取り組んでおりますので、それは可能です。

○鵜川委員長 学校別に、いつどこが柔道をやっている、剣道をやっている、ダンスをやっている

る、そういったもののわかる資料を、恐らく今度10月にやられるという学校が多いと思うんです。ですから、その時期を一覧表にして、見せて、教えていただけますかということです。

○磯本学校教育課長 きちつこの日というのは難しいですけど、このあたり、10月の中旬とかということでしたら可能です。

○鵜川委員長 あわせてその聞き取りの調査のときに、ぜひそこを見せていただきたいという希望がありますので、承諾をしていただけるようお願いしたいと思いますが、よろしいですか。

○磯本学校教育課長 私であれば学校のほうには話はできますので。

○鵜川委員長 じゃあ、お願いします。

資料をお願いしますね。

いいです。

○星野副委員長 委員長を交代いたします。

[委員長交代]

○鵜川委員長 ほかにございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

ないようですので、学校教育についての調査研究を終了いたします。

以上で本日の案件は終了いたしました。

これをもちまして厚生文教委員会を閉会いたします。

皆さん、御苦労さんでした。

午後5時08分 閉会